

# COLOR'S INTERNATIONAL

プロの目で厳しく吟味したパーツを装着  
750のカスタムコンプリートバイクを  
好みに合わせて入手できる

ゼファーが欲しいけれど  
どんなバイクを買っていいのか少し不安……  
そんなライダーにピッタリな

スタイル&性能にこだわったコンプリートマシンが登場  
名車Z2の雄姿を継いだゼファー750を生み出した  
新辰朗さんの想いとは……

PHOTO/HIROSE TEXT/KITOH

ユーザーのこだわりに  
プロの責任で応える

「おっ、キレイなゼツツーじゃ  
ん！ けっこうイジツてるなあ」  
ちよつとバイクが好きな人が見  
たらそう思うに違いない。しかし  
よく見ると「……もしかして、ゼ  
ファー?」。このマシン、カラー  
ズインターナショナルが提案する、  
カスタムコンプリート車なのだ。  
「僕、現役でレースやっていた頃  
はカワサキに縁がなくて、ゼファ  
ーって全然意識してなかったんで  
すよ。引退してからインプレッシ  
ョンの仕事で初めて乗った時も、  
正直言って「遅いバイクだな」  
って思ったくらい(笑)」

こんなに完成度の高いコンプリ  
ート車を開発したカラーズインター  
ナショナル代表の新さんの言葉

## ● Light Complete

125万円～

ここをベースに自分色にカスタム

マフラー	ストライカー製 TEMAGE シリーズ
ステップ	ストライカー製 DPS ステップキット
ブレーキ	ブレンボ 4 ポットキャスティング メッシュホース マスターシリンダー交換
Fフェンダー	ストライカー製エアロデザインカーボン
Rフェンダー	ストライカー製フェンダーレスキット
外装	Z2 タイプ ストライカー製シート バックミラー、ハンドル、グリップ
消耗品	チェーン、スプロケット、 タイヤ、エンジンオイル交換

※別途、登録費用&自賠責保険料が必要

Z2タイプ外装(タンク、サイ  
ドカバー、シートカウル)とタ  
ックロールのオリジナルシート  
で付まはまさに“ゼツツー”。  
ポジションとブレーキを強化し、  
チェーン等の消耗部品関連を新  
品に交換。もちろんプライスに  
はベース車両価格も含まれる



カラーズインターナショナル代表  
新辰朗さん

1961年生まれ。18歳でロードレースを始め、'86年に国際A級に昇格。全日本GP250、GP500、TT-FI、スーパーバイク、'90年には渡米してAMAにも参戦。'95年に現役引退後もイベントレース等に参戦。いまだに抜群の速さを発揮し、ライダーとチューサーとしてのセンスは抜群





ゼファー 750 のコンプリート車を販売するストライカーシステム横浜。カスタムの内容や予算の相談など気軽に応じてくれる。カワサキ車やゼファー以外の車両も整備からカスタムまで幅広く対応。ミニモトやイベントレース参戦のサポートも全然大丈夫

ストライカーシステム横浜  
神奈川県横浜市都筑区  
中川 1-22-5  
TEL045-914-8198  
http://yokohama.striker-system.com/  
営業時間 10:30 ~ 19:00  
定休日 火曜、水曜

にも驚いた「昔からZに憧れていた——」みたいなセリフを期待していたからかもしれないが……。「95年に現役を引退してアフターパーツメーカーを『ストライカー』のブランドで立ち上げたんです。当時はXJRやZRXのマフラーを作ったんですね。そしたらユーザーさんの間で、『ストライカーは音が良い』って評判になって。ところが作った僕自身が『音が良い』の意味が分からなかった(笑)。レースやっていた時は性能しか気にしていなかったわけ」

のアップタイプ  
のフルエキな  
て、サイレンサ  
ーの跳ね上がり

「カワサキのユーザーさんって、とにかくこだわりが大きい。たとえばマフラーならエキパイが描くアールとか、集合した後のテールパイプとフレームの隙間の広さとか、サイレンサーの跳ね上がり具合とか、もうキリがない(笑)。テールパイプとフレームの隙間を20mmくらい広げたらカッコ悪いって言われたし、ゼファー750用のアップタイプのフルエキなて、サイレンサーの跳ね上がり角度だけで4回くらい作り直ししましたかね。他にもフェンダーレスキットなんかもお客さんの要望が大きかったんです。シート下を覗いて貰ったら分かるけど、バッテリーケースから一体でフラットに仕上がっているでしょ。こういうのが欲しいって声が強かったんですよ。細かな要望が多いですけど、僕にとってはすごく勉強になりましたね。だからカワサキの魅力、ゼファーの面白さは、お客さんに教わったんですよ」と新さん。

「国際ライダー、元GPライダーがつくっているパーツは、とにかく『性能が最優先』ってイメージが強いみたいで……。でも、性能や安全性は良くて当たり前、っていうより、なくてはならないわけです。それはレースをやる上では大前提ですから。それを知っている者の責任として、性能が良いのは当然で、『その先』が重要になってくるわけですよ」

ゼファー750コンプリートは、そんな新さんのプロとしての責任と、ユーザー目線のこだわりで生み出された。すでに新車販売が終了しているのでベースは中古車になるが、プロの目で厳しく吟味し



## ● Full Complete

190万円～

いきなりフルカスタムも可能

フレーム	ダイヤモンドコート
スイングアーム	バフ掛け
エンジン	ワイセコ製ピストン、ヨシムラ製カム ST1
マフラー	スーパーストライカーチタン
Rサス	オーリンズ製フルアジャスタブル
Fフォーク	オーリンズ製正立
ホイール	マルケジーニ製アルミ
ステム	Gクラフト製

※ライトコンプリートの仕様に上記のカスタムが施される  
※別途、登録費用&自賠責保険料が必要

ライトコンプリートに加え、エンジンチューンおよび足周りを強化した、走りを意識したモデル。サスやホイール等のパーツはメーカー変更も可能で、ユーザーの予算や好みに応じた仕様で組み上げて行く。ベース車両を持ち込んで製作してもらうことも可能だ





「カワサキの魅力はお客さんに教わった  
僕らの推奨するいちばんカッコいい  
ワクワクするスタイルを提案したい」

程度の良いものを探し出す。オイルやタイヤはもちろん、チェーンやプロケット等の消耗品を新品に交換、キッチリと整備を施す。スタイリングはドレミコレクションのZ2外装キットとオリジナルのタックロールシートでキメて、ステップやハンドルバーの換装でポジションを作る。ブレーキを強化し、フルエキも装備して約125万円。コレがライトコンプリート仕様だ。さらに上を目指すユーザーには、前後オーリンズサスペンションやアルミ鍛造ホイール、エンジンチューンやキャブレターも換装するフルコンプリート（190万円）も用意している。

ちなみに今回紹介している車両はオーナーの希望で、ライトコンプリートをベースに足周りを強化して（ZRXのフォークと前後ホイール、オーリンズのリヤショック等）、STDエンジンにFCRキャブレターを装備。コストを抑えてパフォーマンスを高めた「ライトとフルの中間」に位置する仕様。ようするにZ2スタイルを纏ったゼファア750を、自分好みがカスタマイズできるのがカラーズの特徴だ。「やっていけばいいけど、いまだきは広い意味で周りと共存するバイクライフが重要ですから。コストもユーザーのライフスタイルに合わせる必要があるし。あまりにコストがかかって普通に生活できないようじゃ問題ありませんよね（笑）。

それには昔は「爆音マフラーでも車検の時に交換すれば良い」みたいな考え方もあったけど、今は通用しませんから。タンドムステップも車検時には必要だから、ウチのゼファア750用DPSステップは、ノーマルでもアップサイレンサーでも対応できるように設計してあるんです」

「絶対的な性能と安全を重視するレースの世界で闘ってきた新さんが、経験をベースにストーリーで楽しむライダーの拘りを積み重ねたゼファア750コンプリート。バイクには、速さの他にもこだわるべきところは数多くある。新さんは、それを素直に受け入れ、より深く追求する。ユーザーの気持ちと「温度差」がないから、この完成度が実現できたのだ。」



1/2/3. 燃料タンク、サイドカバー、シートカウルはドレミコレクションのZ2タイプ外装キット（カラーは選択可能）。シートはオリジナルのタック付き 4.オリジナルのフェンダーレスキットはバッテリーケース一体で、シート裏はスッカリ平面 5.ブレンボの変速レシオのラジアルポンプ。ハイスロモーター 6.ステンレスエキゾースト+チタンサイレンサーのストライカー「TEMAGE」のアップタイプ。規制対応品 7.スプロケ/スターターカバーはウッドストックのアルミ削り出し 8.DPSステップキットは40mmアップ、40mm後退 9.ブレンボ4POTにサンスターのローターをセット。フォーク/前後ホイールはZRX純正を流用。フェンダーはオリジナルのカーボン製 10.リヤキャリアもブレンボ製の対応2ポット 11.オーリンズType S36DR1Lはプリロード、伸び減衰力、車高調整機能を装備



ノーマルの  
フレームでも  
0秒台を狙う!

## STRIKER RACING 新辰朗さんの挑戦

今年50歳。それでもまだまだ速くなる!



KAWASAKI ZEPHYR1100

前戦まではオーヴァー製パイプフレーム“OV-32”を使用してきたが今回からはノーマルに戻り、新たな展開を迎えることになった。2007年の初参戦以来、様々なモディファイが繰り返され、進化。決勝では1分1秒397をマーク



走行前は現役時代さながらに緊張感のあるシリアスなオーラを放っていたものの、決勝ではクラス優勝を果たし、思いきりの笑顔。自分を支えてくれる仲間とともに、次戦はさらなるタイムアップを目指していく

応援してくれる人のため  
これからも走る

全日本やAMAなど、長いレースキャリアの中で重ねた幾度もの転倒や、それによる骨折。そのダメージが蓄積してか、昨年からは急に首まわりの調子を崩し、一時は「引退」を口にしていたのがストライカーの新辰朗さんだ。

しかし、多くの人の声援を受けて、今年もスーパーモンスター・エポクラスにエントリー。ゼファールで水冷マシンに挑む果敢な姿を見せてくれたのである。

前戦まではレーサーに近いデザインを持つOVフレームだったが、今回はノーマルフレームに変更され、一からの車体作りが始まった。まだリヤ周りとのバランスが完全ではなく、コーナー立ち上がりでは豪快にスライドするシーンも見られたが、予選ではハイクュリーズクラスと混走の中、

総合8番手、クラス2番手で決勝レースに臨むこととなった。

このクラスの決勝はテイストのメインイベントだ。多くのファンが見守るなか、決勝がスタートし、新さんは予選を上回る1秒3を叩き出しながら総合5位へ、そしてクラス優勝を達成し、会場のファンを魅了した。

この結果を受け、オリジナルカラムを投入するなど、早くも秋のテイストに向けて準備を開始した新さんの目標タイムは0秒前半とのこと。その瞬間は、次戦11月6日に見られるかもしれない。



パドックでは亜子ちゃん(5歳)と大昇くん(8歳)とともに過ごす良きパパでもある